

横浜市記者発表資料

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

令和8年1月16日
経済局イノベーション推進課

鶴ヶ峰駅からズーラシアへ、自動運転バスの実証実験を実施

横浜市では、社会課題の解決に資するビジネスの創出に向けて、企業・スタートアップによる先進技術を活用した実証実験を支援しています。

その一環として、NTTドコモビジネス株式会社を代表機関とした8社で構成されるコンソーシアムが、バスの運転士不足などの課題に対応する自動運転バスの走行実証を鶴ヶ峰駅～よこはま動物園間で実施します。本実証は、自動運転車両の周囲の環境の把握や遠隔監視等のための通信に新技術を使用することで、より安全な走行の実現を目指すものです。一般試乗期間中は事前予約をすることで体験乗車ができます。

なお、本実証は総務省の「地域社会DX推進パッケージ事業（自動運転レベル4検証タイプ）」に採択されて実施するものです。

期間	実証実験期間：令和8年1月17日（土）～1月22日（木） 一般試乗期間：1月17日（土）、18日（日）、21日（水）、22日（木）の4日間 運行時間：9時～17時（30～45分間に1往復程度運行）
実証の趣旨	本実証は、主に自動運転の実現に必要な遠隔監視やスマート道路灯などの通信技術の検証を目的として行います。 実証に際しては運転士が乗車し、必要に応じて手動介入して安全に運行します。
ルート	鶴ヶ峰駅 ⇄よこはま動物園（ズーラシア）正面バス停 ※片道約5.3kmの区間
試乗	専用サイトからの事前予約制（詳細は裏面）
遠隔監視	相鉄バス旭営業所にて実施 ※一般公開はしません。
実施企業 (コンソーシアム)	NTTドコモビジネス（株）：全体管理 相鉄バス（株）：運行管理 先進モビリティ（株）：自動運転バスの走行にかかる設計、調律 NTTアドバンステクノロジ（株）、（株）NTTデータ経営研究所、スタンレー電気（株）、（株）東海理化、ドコモ・テクノロジ（株）：自動運転バスおよび通信に関する技術開発

※本件は、経済記者クラブへも発表しています。

裏面あり

※本件は、実証の実施主体であるNTTドコモビジネス（株）をはじめとするコンソーシアムと同時発表しています。

お問合せ先

【実証実験全体に関するご質問】

NTTドコモビジネス株式会社 ビジネスソリューション本部 第五ビジネスソリューション部
E-mail bbx-5bs3g@ntt.com

【実証実験支援に関するご質問】

経済局イノベーション推進課担当課長 高木 秀昭 Tel 045-671-4904



GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



一般試乗について

乗車料

無料

乗車定員

10人（着席のみ）

乗車場所

（往路）相鉄本線鶴ヶ峰駅バスターミナル9番乗り場

（復路）よこはま動物園（ズーラシア）バス乗り場

乗車方法

試乗専用乗車予約サイトからの事前予約制



試乗専用予約サイト（往路）



試乗専用予約サイト（復路）

【往路：鶴ヶ峰駅発→よこはま動物園着】

<https://cubic.com/952e4759114ee1b8a52e/1605725>

【復路：よこはま動物園発→鶴ヶ峰駅着】

<https://cubic.com/952e4759114ee1b8a52e/1880389>

・往路と復路は別々の便のため、往復での予約はできません。ご希望の場合は、往路と復路それぞれお申込みください。

・天候などの影響により手動運転への切り替えもしくは運休する場合があります。

車両イメージ	日野自動車「ポンチョ」（定員 34 人） 
台数	2台
試乗枠の定員	10人
センシングデバイス	3DLiDAR 8台、ミリ波レーダー1台、物体検知カメラ 10台
走行可能環境	天候：晴天、曇天、雨天（小雨） 照度：130lx 以上

次ページあり



GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



実証実験の内容

本実証は狭い生活道路や見通しの悪い交差点など、運転が難しい都市部特有の交通環境において、最新通信技術を活用した、安全かつ円滑な自動運転走行を支援する通信環境や制御システムの構築を目的としています。

実証のポイント

1. 走行区間の拡大

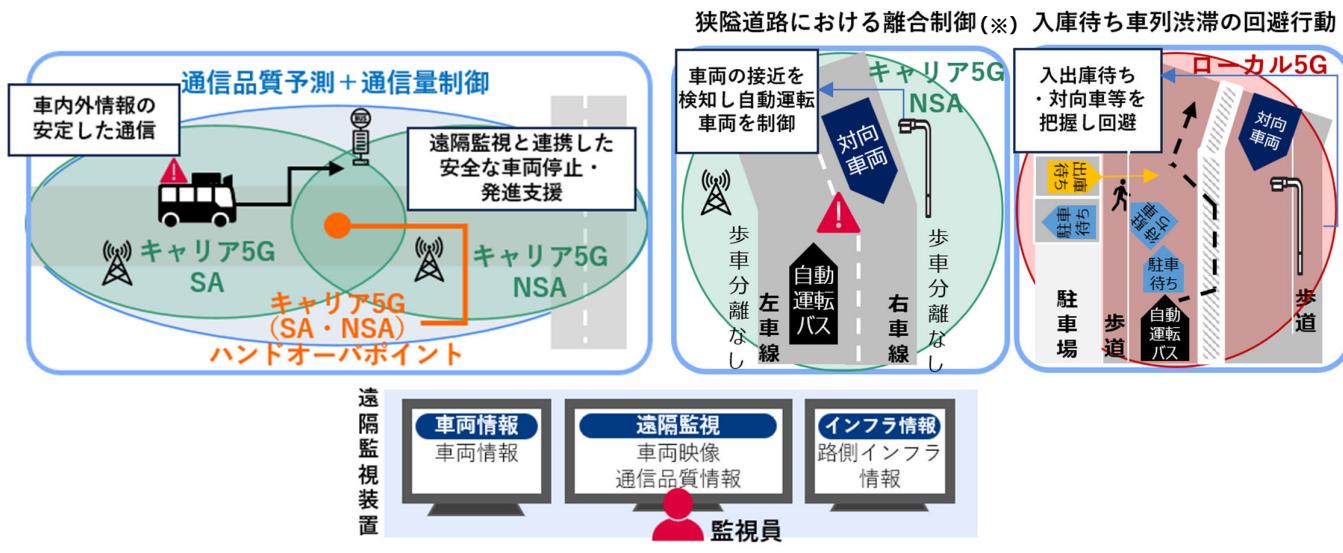
昨年度の約 2 km から、今年度は鶴ヶ峰駅～よこはま動物園間の約 10.6km と走行区間を拡大します。

2. 2台の自動運転バスを同時運行

自動運転バスに搭載されたカメラ映像や車両制御データなどの大容量データを、走行中でも安定して送受信できる通信環境、監視員 1 名で 2 台を遠隔監視する効率的な運用を検証します。

3. 狹い生活道路の運行に通信の新技術を活用

路側インフラ（カメラやスマート道路灯（※）、LiDAR などのセンサー）と通信技術を活用し、安全な離合や渋滞回避を検証します。



実証実験イメージ図

※スマート道路灯：従来の道路照明灯とは異なり、灯具機能に加え、筐体組込み型 AI カメラや環境センサー、路面描画装置を搭載した次世代の道路照明灯。

※狭隘道路：道幅が狭かったり、見通しの悪い道路。

地域社会 DX 推進パッケージ事業（自動運転レベル 4 検証タイプ）について

本事業は、総務省が実施する実証事業であり、地域限定型の無人自動運転移動サービスの実装・横展開にあたって課題となる遠隔監視システムその他の安全な自動運転のために必要な通信システムの信頼性確保等に関する検証を実施するものです。



GREEN x EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

